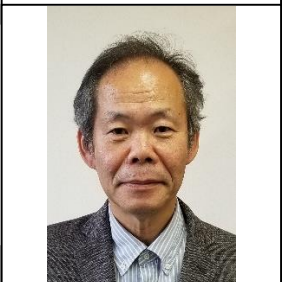


教育学・心理学

keyword

- リーダーシップ
- マネジメント
- 人材育成
- 教職大学院
- 連携



河口 眞佐男
Masao Kawaguchi

大学院高度教職実践専攻 教授

- 【プロフィール】**
- ・学校経営論
 - ・滋賀県公立小中学校
 - ・滋賀大附属中学校
 - ・滋賀県教育委員会事務局

- 【主な社会的活動】**
- ・滋賀県美術教育研究会 顧問
 - ・次世代文化芸術センター 運営委員
 - ・県立陶芸の森美術館 運営委員
 - ・草津市立高穂中コミュニティースクール 運営協議会委員長
 - ・滋賀県教育会近江教育編集委員
 - ・甲賀市教頭会研修 講師 2015
 - ・菟王町事務事業評価委員会委員長

- 【その他】**
- ・生徒・保護者・地域教職員相互の信頼による自律的学
校経営の取組(1) 教職実
践研究第1号 2016 滋賀大
学大学院教育学研究科
 - ・同(2)同第2号2015

【代表的な研究テーマ】
□ スクールリーダーの育成に関する研究
～教職大学院の実践を通して～

課題解決に役立つシーズの説明

近年の社会の変化は大きくそのスピードに驚きと戸惑いを覚える。特に少子高齢化社会の到来が目の前にあることが現実であり、わが国の在りようを自分事として受けとめ、どう対処すべきか自分なりの答えを持つことが必要なかも知れない。平成から新たな元号に変わる日も近い。昭和の時代で経験したような右肩上がりの高揚感と根柢のない漠然とした夢や希望を語りあうことも遠い時代の昔話になりつつある。

一方、学校教育を取り巻く状況もますます複雑化、多様化するなかで、今回の学習指導要領の改定においては「道徳の時間」を特別の教科「道徳」とし心の教育の必要性があらためて示された。また、小学校には外国語教育の時間数の拡大やプログラミング学習の推進、指導方法においては主体的・対話的で深い学びによる授業改善などそれぞれに学校現場においてすすめられている。ただ、改定の目玉を列挙すると流行りに傾いた印象を受けるが、不易としての「生きる力」の育成が学習指導要領改定の理念として軸足がぶれていないと理解すべきである。学習指導要領の改定を例にして、今学校が社会から期待され求められていることの一面を取り上げたが、いじめ問題など生徒指導上の課題解決、地球温暖化、近い将来といわれている大規模地震などへの防災への備え、社会問題でもある「働き方改革」の実効性ある取り組みなど実に多くの重要課題が浮き彫りにされている

こうした状況を前にして、21 世紀に生きる子どもたちの教育を担う学校に寄せられる期待の声に応えることは、学校教職員の使命であり、懸命に日々の地道な教育活動に取り組んでいる。しかし個々の努力では限界があることは明らかであるが、教職員組織の現状は年齢層において、中間層であるミドルリーダーが少ない極端な「ふたこぶ」状態にある。またそのために、学校の教職員や関係する機関、地域・保護者、スクールカウンセラーなどの専門家が協働する「チーム学校」としての組織化が必要である。ただ、年齢の高い層が定年により大量に退職する状況はしばらく続く。定年延長の措置がなされても教員組織の若年層化には歯止めとはならないだろう。そのため、教科指導、生徒指導、学級経営、保護者対応などにおいて若手教員が確かな力量を有すベテラン教員から学び成長していくという従来から自然に行われてきたOJTがうまく機能せず、組織が弱体化することが懸念される。また、学校経営において経営ビジョンを提示しリーダーシップを発揮して特色ある学校経営ができる校長のなり手の人材不足も現実となっていく。まさに、学校力の低下が現実味を帯びてきたと言える。

こうした状況に対して人材育成の具体的な施策として教職大学院が本学教育学研究科に教職大学院が一昨年によりやく誕生した。教職大学院の特色である、研究者教員と学校現場の経験とを有する実務家教員の共同により講義と演習を行うところであり、筆者は公立中学校の校長を退職後、本学に採用されて教職大学院の設置認可に向けて県教育委員会や市町教育委員会との折衝にあたるなどの準備にあたってきた。今年度で開設2 目年となり学校経営力開発コース、実践力開発コースの2コースで院生の指導にあたっている。2 コースのうち学校経営力開発コースの担当として講義や演習に務めている。

